

WEBINAR FRIDAYS

実践!

基準撮影法と応用の撮影

～追加撮影のポイント～

📅 2021.02.26金

🕒 18:00-19:00

演者

工藤 泰

先生

公益財団法人 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック 放射線科 技師長

会場

Virtualセミナールーム

次のいずれかの方法でご参加ください。



- ① <https://www.hitachi.co.jp/products/healthcare/events/seminar/wf0226>
- ② 「日立ヘルスケア」で検索 🔍 » 「展示会・セミナー」 » 「セミナー」
- ③ 左のQRコードをスキャン 📱

備考

- ・ 無料でご視聴いただけます。
- ・ 視聴はライブストリーミング(当日のみ)に限ります。
- ・ ウェビナー中のご質問やコメントを受け付けております。チャットボックスにて投稿ください。
- ・ 動画の視聴に関してはこちらをご覧ください。 <https://www.stream.co.jp/check/office/>

ABSTRACT

2009年にNPO日本消化器がん検診精度管理評価機構より「胃がんX線検診新しい基準撮影法マニュアル」が発刊され、そのコンセプトは、①簡明な撮影法で検診への導入が容易であること、②普遍的な撮影法であること、③継続性があること、④成果を期待できること、⑤画質の評価ができること、の5項目であり、撮影体位と撮影順序や使用する造影剤の濃度・量等が基準化された。

この「胃がんX線検診新しい基準撮影法マニュアル」にある撮影法(以下基準撮影法)はコンセプトにもあるように簡明な撮影法で、撮影の初心者でも習得しやすく、基準撮影体位の撮影では上級者と同格の画像を撮影できるようになるまでそう時間がかからない。しかし実際の検診現場では基準撮影体位のみを撮影していれば済むわけでもなく、胃の形や障害陰影によりブラインドになった部位や、異常な像に対する追加撮影が必要な場面が多くある。

基準撮影法では、追加撮影について用語の規定はされているが撮影体位や体位変換の方法などの規定がなく、実際にどのように撮影すればよいか疑問に思う事が多いと思われる。今回は、基準撮影法における応用の撮影である追加撮影について考え方や撮影法について講演する。

公益財団法人 早期胃癌検診協会
附属茅場町クリニック 放射線科

工藤 泰

Join our next **WEBINAR FRIDAYS**

今、放射線被ばくを低減する。～X線透視検査の被ばく低減と管理～

座長 鈴木 賢昭 先生 ベルランド総合病院
演者 佐藤 寛之 先生 聖マリアンナ医科大学病院

 **2021.03.05**金
18:00-19:00

EUS MASTERCLASS

演者1 安田 一朗 先生 富山大学
演者2 伊佐山 浩通 先生 順天堂大学

 **2021.03.19**金
19:00-20:00